

6. 対象事業に係る事後調査の項目及び手法・期間

事後調査の実施項目は、表 6 に示すとおりである。

表 6 事後調査実施項目

調査項目		調査内容
建設 工事中	水 質	濁度、SS
	建設機械・工事関連車両の稼働状況	種類・型式別の稼働台数・稼働時間等
	建設機械の稼働に伴う騒音	騒音レベル
	建設機械の稼働に伴う振動	振動レベル
	廃棄物・残土	廃棄物量、掘削残土量
供用 開始後	列車の走行に伴う騒音	騒音レベル
	列車の走行に伴う振動	振動レベル
	列車の走行に伴う低周波音	低周波音圧レベル（G 特性最大値）
	換気施設の稼働に伴う騒音	騒音レベル
	換気施設の稼働に伴う低周波音	低周波音圧レベル
	駅施設の廃棄物	廃棄物量

6.1 建設工事中

建設工事中の事後調査の内容は、表 6.1 に示すとおりである。

なお、調査地点、調査時期等の調査の詳細については、工事計画の熟度が高まった時点で、関係機関と協議の上、決定する。

表 6.1 建設工事中の事後調査の内容

事後調査項目	事後調査の手法	事後調査の時期・期間 及び頻度	評価指針
水 質 (濁度、SS)	- 調査地点：事業計画地の道頓堀川 (図 6.1 参照) - 調査方法：「水質汚濁に係る環境基準」に定める方法 *濁度については濁度計等を用いて計測し、SS との相関関係により管理基準を設ける。	ケーシングパイプ等引抜き、仮締切内の工事排水の期間中 ・濁度：1 回/日以上 ・SS :1 回/週以上	環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること
建設機械・工事関連車両の稼働状況	- 調査地点：各工事区間 - 調査方法：工事作業日報の整理等による。	建設工事中	環境負荷の低減に配慮された工程になっていること
建設機械の稼働に伴う騒音	- 調査地点：敷地境界で建設機械の稼働位置や周辺の土地利用の状況、騒音が最大となると予測される高さを踏まえ、適切な調査位置を選定する。 (図 6.1 参照) - 調査方法：JIS Z 8731「環境騒音の表示・測定方法」に準拠した方法	- 各工事区間における工事最盛期の 1 日¹⁾ - 工事時間帯について、毎正時から、10 分間測定。	特定建設作業に係る騒音の規制基準値(85 デシベル)以下であること
建設機械の稼働に伴う振動	- 調査地点：敷地境界で建設機械の稼働位置や周辺の土地利用の状況を踏まえ、適切な調査位置を選定する。(図 6.1 参照) - 調査方法：JIS Z 8735「振動レベル測定方法」に準拠した方法	- 各工事区間における工事最盛期の 1 日²⁾ - 工事時間帯について、毎正時から、10 分間測定。	特定建設作業に係る振動の規制基準値(75 デシベル)以下であること
廃棄物・残土	- 調査地点：各工事区間 - 調査方法：再資源化の目標値等を設定し、請負業者にその旨を指示したうえで、それらの達成状況や廃棄物等の発生量を、請負業者の工事日報等により把握する方法	建設工事中	発生量・排出量の抑制及び適切なリサイクル・処理がなされていること

(注) 1. 音源パワーレベルが最大になると考えられる工事内容の最盛期に実施する

2. 基準点振動レベルが最大になると考えられる工事内容の最盛期に実施する

